



NTTグループの取り組み

日本電信電話株式会社 代表取締役社長 ^{みうら}三浦 ^{さとし} 愷



はじめに

NTTの三浦でございます。昨年11月には、ITU電気通信標準化局 (ITU-T) の局長選挙にNTT前取締役の井上友二氏が立候補しました。結果は、皆様ご承知のとおり、僅差で敗れてしまいましたが、立候補してから選挙結果が出るまでの間、総務省を始め、政府関係者、本日お集まりの皆様にお世話になりました。この場を借りて、厚く御礼を申し上げます。

さて、電気通信技術の進歩は、非常に急激で、またグローバルな展開がなされています。そのため、これからも標準化ということが、我々にとっても、日本にとっても非常に大事であると思います。これからお話しさせていただきます、光やNGNに関係する技術を、日本のみならず海外でも使用してもらうことは、我々にとってもメリットがありますし、国際競争力という面も含め、日本にとっても有益だと考えています。

我々も努力していきますが、標準化には国を挙げての取り組みが重要だと思いますので、これからもご協力をよろしくお願い申し上げます。

ブロードバンドの進展

現在のNTTの取り組みについて、簡単にご紹介させていただきます。

2001年に政府からe-Japan戦略、2004年には総務省からu-Japan政策が公表され、様々な取り組みがなされています。我々も、政府等の方針に沿いながら、3年前に中期経営戦略を発表いたしました。その中核は、3000万人のお客様に使っていただくことを一つの目安としている光サービスの充実と、NGNの構築です。

発表後3年近く過ぎたわけですが、この間、ブロードバンドが急速に進展しました。光だけではなく、ADSLを含めて、昨年度末で既に2600万を超える方々がブロードバンドに加入されており、間もなく3000万になろうかという状況です。私たちが力を入れております光サービスについても、ここ1、2年急速に加入者数が増えてきました。NTTだけでも、今年度末には1000万近くになるのではないかと見ています。

つい2、3年前まで、海外の投資家向け説明会に出かけたり、海外のキャリア、あるいはベンダーの方々と話をしたときには、この光について、「クレージーではないか。何で儲か

りもしないものを、あるいはメタルでいいものを、光を張っていくのだ」と言われることがありました。特に、投資家の皆様方からは、皮肉をこめた厳しい意見をたくさんいただきました。やっこここ1、2年はそういう声を聞かなくなりました。今では、ベライゾンとかAT&Tといったところはかなり光アクセスに力を入れておりますし、ヨーロッパでも、ドイツ、フランスを中心に、光に力を入れていこうという動きになっています。

また、携帯でもブロードバンド化が進んでいます。既に、2Gから3Gにかなり移行していて、今、約8割が3Gになっているという状況です。WiMAXも、間もなく電波の免許申請という段階に来ています。無線の分野でも、ブロードバンド化はますます加速してきているという状況です。

既存のIP網とNGNとの違い

こうした状況の中で、IP網が、コアネットワークとしてどんどん進展してきています。現在のIP網は、NTT東西が個別に、県内通信しかできない時期に作ったものですから、県内網をつなぎ合わせた形となっています。したがって、網構成も必ずしも効率的な構成にはなっていません。昨年は何回か大きな事故を起こしまして、皆様方に本当にご迷惑をおかけしてしまいました。

そういった状況も踏まえ、増大の一途をたどるアクセス数にも、ブロードバンド化にも対応できるコアネットワークの構築に、今、取り組んでおります。我々以外にも、国内外のキャリアさんの取り組みも進んできているのが現状です。

NGNについては、昨年12月からトライアルを始めています。大手町と大阪にショールームを設けて、国内外のベンダーの方々とか、情報機器メーカーの方々にご参加いただいています。今年7月にリニューアルして、現在、約30社の方々にいろいろなアプリケーションを展示していただいています。また、今春から、500名ほどの一般の方々に、モニターとして実際にご利用いただいて、ご意見やご感想を伺っているところです。

NGNの目的は、これまでのベストエフォート形のサービスだけではなく、品質を保証したサービスも併せて提供することです。既存のIP網にはない、セキュリティのきちんと整ったネットワーク、電話網とまでは行きませんが、少な



くとも既存のIP網とは違って、ネットワークの管理が可能なネットワークです。従来のIP網に替わる新しいコアネットワークを作り、ブロードバンドのアクセス網とセットで、トータルとしてユビキタスサービスの展開に資するという事です。

NGNのキーワードは安心・安全

安心・安全は、今、日本におけるメインテーマです。もちろん、安全保障上の安心・安全もありますし、最近よく話題になる食の安心・安全、環境・治安面での安心・安全もあります。

通信の世界でも、安心と安全は、我々キャリアだけの問題ではなく、トータルとして非常に大きな課題だと思っています。もちろん、自然災害などの際に、物理的なネットワークを確保するという安心・安全もありますし、サイバーテロ等に対してセキュリティを確保するというソフト面の安心・安全もあります。また、プライバシーの問題を含めた情報の安心・安全もあります。NGNは、こういったいろいろな安心・安全に、特に配慮しています。NGNを展開することによって、ユビキタスサービスというものが花開くと思います。

NGNによってもたらされるもの

今、日本には、二つの大きな課題があると思います。一つは、いかに社会・経済を成長させていくかです。この課題に対しては、ICTが最も大きな貢献をすると言われています。ICTが、日本のGDPの成長に占める割合は約4割とも言われていますが、NGNを構築することによって、行政サービス、あるいは企業の効率性・生産性も更にアップするし、新しいビジネスモデルも出てくると思います。NGNは、結果として日本の成長にも貢献できると考えています。

二つ目の課題は、少子高齢化、介護医療の充実、地域社会の活性化、環境、エネルギー問題、地震等の大規模災害への対応等、日本社会の抱える様々な社会的課題をいかに解決していくかということです。NGNを活用することで、このような課題の解決にも貢献できると考えています。

例えば、日本では病理医、細胞を採って検査するお医者さんが非常に少ないそうです。NTTでは、岩手医科大学と地方の病院とをブロードバンド回線で結んで、岩手医科大学の専門の先生方に、地方の病院で採取した細胞が癌細胞かどうかを遠隔で診断していただいて、具体的な措置方法を指示してもらうというような取り組みも行っていました。

また、アメリカではホームオフィスと言ってありますが、例えば、身体が不自由な方々、あるいは家庭の主婦で子どもが小さくて家を空けられないという方々にご利用いただける、在宅勤務の仕組みを提供しようとしています。

そのほかにもいろいろな課題がありますが、ブロードバンド、あるいはブロードバンドとNGNがセットになったユビキタスネットワークというものが、皆様の安全・安心な社会作りに貢献できるだろうと思っています。

NGN実用化に向けて

NGNの実用化につきましては、来年のできるだけ早い時期に商用化したいと思っています。今年11月には、その具体的なサービス内容、あるいは料金の考え方といったものを発表したいと思っています。ただ、新しいネットワークですので、事前のテストも相当行わなければなりませんので、最初から大きな規模でスタートするというわけにはいかないと考えています。今のトライアルの延長線上でスタートして、逐次エリアを拡大し、サービスも追加していく、そんなスケジュールを考えています。

ネットワークについては、オープンとコラボレーションというスタンスで行きたいと考えています。我々だけで、すべてのサービスを提供できるわけではありませんので、できるだけ多くの事業者の皆様に使っていただき、場合によっては共同でサービスを創造するという事も考えていきたいと思っています。使い方はいろいろあっていいと思っています。いずれにしても、この新しいネットワークをオープンな形で実現したいと考えていますので、是非ご提案をいただければと思っています。

私たちだけではなく、ほかのキャリアの皆様も、それぞれ中身は多少違うかもしれませんが、オールIPのNGN構築に向けて進んでおられます。その上にユビキタスサービスの花が開くのを期待して、これからも取り組んで行きますので、ご理解とご協力をお願いしたいと思います。

簡単ではございますが、現在の私どもの取り組みについてお話しさせていただきました。

ご清聴ありがとうございます。

(2007年9月13日第359回ITUクラブ講演より)



ITUクラブで講演する筆者